

平成 26 年度東北ブロック活動方針

1. 支援拠点機関の設置推進と支援ネットワーク運用

- 拠点機関同士の支援ネットワークの構築を支援：東北ブロック会議（年度内 2 回）の開催。（第一回 仙台国際センター、第二回 宮城県仙台市を予定）
- 高次脳機能障害の啓発とサービスを利用していない高次脳機能障害者の減少を図ることを目的に、東北ブロックシンポジウムを宮城県仙台市にて開催。
平成 26 年 11 月 30 日（日）9:30～13:00 仙台国際センター
（日本高次脳機能障害学会の市民公開シンポジウムとして）
- 東北ブロックの支援体制の均てん化、および各県内での支援体制の均てん化を図る。各県の支援拠点機関の充実と拠点機関拡充のための患者の評価と支援のあり方をさらに検討。
- 高次脳機能障害の診断医養成のため、若手を対象に平成 26 年 8 月 2 日（土）～8 月 3 日（日）ラフォーレ蔵王にて「行動神経学 夏の学校 2014」の開催
- 認知リハビリテーションの医学的評価と技法と評価尺度の開発継続。
- 東北ブロック傘下の連携医療機関の患者を通じたリハビリテーション技法の臨床効果のデータ集積。
- 医学的にリハビリテーションを受けた患者の長期帰結と福祉モデルにおける評価方法の研究継続。
- 高次脳機能障害者の認知リハとその後の社会復帰状況の共同調査を進める。
- 外傷性脳損傷に対する画像検査法の開発継続。
- 高次脳機能障害者の自動車運転に関する評価の導入および共同研究に参画。

2. 就労支援体制の整備継続

- 東北ブロック各県下での自立支援法による高次脳機能障害者受け入れ可能な施設の調査を踏まえた実用的なネットワーク構築
- 就学・就労支援状況の実態調査

3. 東北ブロック拠点機関

青森県 一般財団法人 黎明郷 弘前脳卒中・リハビリテーションセンター 0172-28-8220（代）

秋田県 秋田県立リハビリテーション・精神医療センター 018-892-3798（直）

岩手県 財団法人 いわてリハビリテーションセンター 019-692-5800（代）

山形県 山形県高次脳機能障がい者支援センター・国立病院機構山形病院 023-681-3394（代）
山形県庄内高次脳機能障がい者支援センター・庄内医療生活協同組合鶴岡協立リハビリテーション病院 0235-78-7511（代）

宮城県 宮城県リハビリテーション支援センター 022-784-3588（代）

学校法人東北薬科大学病院 医療連携センター 022-259-1221（代）

気仙沼市立病院 〒988-0053 宮城県気仙沼市田中 184 0226-22-7100（代） 予定

福島県 福島県高次脳機能障がい支援室 財団法人脳神経疾患研究所附属総合南東北 病院内
024-934-5322（代）



日時 2014年8月2日(土)10時30分
～8月3日(日)16時00分

場所 ラフォーレ蔵王

主催

東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学
 厚生労働省科学研究費補助金
 「高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究」

日程

8月2日(土)		
10:30 - 11:30	行動神経学総論	森
11:30 - 13:00	視覚・注意の障害	鈴木
*** 昼休み ***		
14:00 - 15:00	大脳半球の左右差・脳機能論	鈴木
15:00 - 16:30	視覚の障害・失読	平山
*** 休憩 ***		
16:40 - 17:40	記憶の障害・健忘	西尾
17:40 - 19:10	行為の障害・失行	平山
*** 懇親会 ***		
8月3日(日)		
8:00 - 9:00	前頭葉機能障害	森
9:00 - 10:00	認知症	松田
*** 休憩 ***		
10:10 - 11:10	言語の障害・失語症①	飯塚
11:10 - 12:10	聴覚障害	飯塚
*** 休憩 ***		
13:00 - 14:00	言語の障害・失語症②	松田
14:00 - 15:00	行動異常・精神症状	西尾
15:00 - 16:00	認知・行動障害の臨床	森
*** 終了後 解散 ***		

講師：森 悦朗(東北大高次脳機能障害科)
 鈴木 匡子(山形大高次脳機能科)
 平山 和美(山形保健医療大作業療法学科)
 松田 実(東北大高次脳機能障害科)
 飯塚 誠(東北大高次脳機能障害科)
 西尾 慶之(東北大高次脳機能障害科)

開催料、資料
 (別途送料・消費税がかかります)

申し込み・受付として
 tohoku19@ncc.ac.jp

8月2日(土)は自費でラフォーレ蔵王までお越しください。
 (当日はバス等送迎を予定しております。)
 ○当日までの申し込みは各自負担となります。

この開催は東北各地で巡回が行われておりますので、この機会にお知りたてを希望の方は是非お申し込みください。

連絡先
 東北大学大学院医学系研究科高次脳機能障害学 森尾まで
 (電話) 022-717-7356 (FAX) 022-717-7350
 (メール) bcn.med.tohoku@gmail.com
 (フェイスブック) <https://www.facebook.com/TOHOKUKOUJI>

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
平成25年度 分担研究報告書

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究
(H24-精神-一般-009)

研究分担者 市川 忠 埼玉県総合リハビリテーションセンター医療局長

研究要旨

関東甲信越ブロックでは、これまで在宅支援・地域支援を中心に事業を進めてきた。平成22年度にはブロック内の全県において支援拠点機関が設置されるなど各県における取組みも徐々に進んできたことから、平成25年度は事業のキーポイントを就学・就労支援に置くこととした。

その一方、ブロック内の各県における取組みについては、支援拠点機関となっている施設の種別、取組みへの経験、県民性などにより格差が認められることから、情報交換や意見交換などを通じてブロック内の均てん化を図ることとした。

A. 研究目的

関東甲信越ブロック各県において、就学・就労支援をはじめとする高次脳機能障害支援普及事業への取組みを推進すること。

また、各県間における取組みの格差を是正し、ブロック内の均てん化、さらには各県内の均てん化を推進すること。

B. 研究方法

関東甲信越ブロック各県の支援拠点機関及び県主管課によるブロック会議を開催し、各県における支援体制の進捗状況、就学・就労に向けた支援拠点機関の取組み状況及び今後の展開等を中心に意見交換を行った。

また、各県の事業実施状況や研修会等の開催状況についても情報交換を行った。

なお、この会議は東京ブロックと合同で開催した。

(倫理面への配慮)

ブロック会議に関連して各都県から事例を紹介する際は、特定の個人が識別される可能性のある情報はすべて伏せており、個人のプライバシーが損なわれたり不利益を被ることはない。

C. 研究結果

1. 関東甲信越ブロック会議

※東京ブロックと合同開催

日時：平成25年8月1日（木）

場所：大宮ソニックシティ（さいたま市）

出席者：42名（支援拠点機関職員、
県主管課職員）

概要

1) 基調講演

「高次脳機能障害支援普及事業

平成25年度事業運営方針」

講師：中島八十一先生（研究代表者

・国立障害者リハビリテーションセンター学院長）

講演では、まず、研究の進捗状況と本年度における重点的な取組みについての解説があり、続いて、画像所見が陰性であっても高次脳機能障害を残している事例が極めて少数ながらも存在することが調査により判明したこと、また、重傷度の高い方の福祉就労を推進するため、新たに障害者支援施設の職員を対象とした高次脳機能障害の研修会を開催するなど理解促進の取組みを始めたことなどが紹介された。

2) 議題

まず、各都県支援拠点機関から事業の進捗状況について報告があり、続いて支援拠点機関の運営や地域ネットワークの構築、就学・就労などの社会参加支援に対する実態把握や取組状況について意見交換や情報交換を行った。

(1) 各県支援拠点機関における事業の進捗状況(別添資料1参照)

ア 茨城県

相談件数が増えてきたことから支援コーディネーターを1名増員し3名とした。

就労支援の取組みとして、高次脳機能障害者を受け入れている民間の就労支援訓練施設と連絡会を設け、事例検討や情報交換を行っている。

また、支援コーディネーターが障害者総合支援法の相談支援事業所を訪問するなどネットワークの構築に取り組んでいる。

普及啓発の取組みとして、高次脳機能障害者支援情報サイトを立ち上げたほか、高次脳機能障害の支援に関する小冊子を作成し、県内のリハビリ病院等で配布している。

イ 栃木県

支援拠点機関が県内1か所であるため相談が集中してしまうことから、市町村や保健所など関係機関とともに巡回相談を開始した。

就学・就労支援の取組みとして、公共職業安定所の新任職員を対象とした研修の実施や障害者就業・生活支援センターの担当者会議等への参加を通じてネットワークの構築を図っている。

また、平成24年度に就労機関及び教育機関を対象として実施した社会資源調査の分析を行った。結果については、今後有用な形で発信する予定である。

医療関係者への普及啓発の取組みとして、医療機関等の専門職を対象にした研修会やPSW及びMSWを対象とした研修会に力を入れている。

ウ 群馬県

就労支援の取組みとして、「高次脳機能障害支援連絡会議」のメンバーに障害者就業・生活支援センターと一般相談支援事業所を新たに加え、就労の課題を地域支援の視点で検討できる体制を整えた。

また、障害者就業・生活支援センターにおける事例を使用した研修会を開催し、就労支援のポイントを学習するとともに就労支援の現状や課題の共有を行った。

さらに、高次脳機能障害支援情報マップ作成事業に参加し、県内の社会資源の調査を行った。

このほか障害者職業センターとの連携や「高次脳機能障害者と家族の教室」の運営への協力等を行っている。

エ 埼玉県

支援拠点機関である県高次脳機能障害者支援センター(県総合リハビリテーションセンター内に設置)では、相談対応の水準を維持するため、初回受付の相談案件について職員全員で毎週カンファレンスを行っている。

市町村や保健所から「高次脳機能障害の理解は進んでいるが、地域資源や対応方法のノウハウが少ない。」との要望があり、支援拠点機関の職員が県内保健所に出向き、障害の特性や支援拠点機関の業務について説明を行っている。

就労支援の取組みとして、支援拠点機関において専門外来での評価、診断、外来リハビリを行うとともに、県総合リハビリテーションセンターの障害者支援施設部門において復職・就労に向けた訓練と支援を行っている。

小児の高次脳機能障害については、小児専門医のいる県立小児医療センターでの対応を優先しつつ、支援拠点機関においても個別事例として対応している。

なお、平成25年10月にさいたま市が市障害者更生相談センターを中心とした相談支援体制を発足させた。

オ 千葉県

支援拠点機関が3か所あり、千葉リハビリテーションセンター、旭神経内科リハビリテーション病院及び亀田リハビリテーション病院が機能に応じた支援をそれぞれ行っている。

地域在宅支援事業所との症例検討会議を開催したり、地域活動支援センターと協働して地域生活に移行した高次脳機能障害者の支援を行うなど地域連携の取組みを積極的に行っている。

就学・就労支援の取組みとして、千葉リハビリテーションセンターでは、学童期から青年期、そして成人期へ、また、教育から就労へと支援を繋いでいくための検討を行っている。

また、医療機関である旭神経内科リハビリテーション病院及び亀田リハビリテーション病院では、引き続き治療を中心に高次脳機能障害者の地域生活移行を積極的に支援している。

カ 神奈川県

平成19年度から進めてきた障害保健福祉圏域ごとのネットワーク作りが完了し、地域での相談支援、支援拠点機関での診断評価、専門的支援、地域での日中活動、就労（継続）支援に至る一貫した支援体制が確立された。

また、退院後に障害者手帳や自立支援医療の取得ができない方についても、診断書での福祉サービス利用がほぼ可能となった。

さらに、退院後に利用する地域社会資源についても、相談支援事業所等から紹介・調整を受けることのできる体制が整っている。

地域の支援拠点となる8か所の高次脳機能障害機関があり、連絡会議を通じて情報交換を行っている。

小児の高次脳機能障害については、小児科医と連携しつつフォローアップや介入を行っている。

キ 新潟県

支援拠点機関である高次脳機能障害

相談支援センターが精神保健福祉センターに併設されている。県域が大きく医療機関も偏在していることから、県内の12保健所と新潟市こころの健康センターが地域の支援拠点となり、研修会や検討会を実施している。

就労支援の取組みとして、本年度、高次脳機能障害者の福祉就労の実態把握のための調査を行い、受入可能な事業所等の把握、福祉就労の問題点や課題の整理等を行うこととしている。

児童の高次脳機能障害者については、個別事例を通じて支援を行った。

その他、関係機関の支援技術向上やネットワーク構築を目的として積極的に研修を行っている。

ク 山梨県

既存のネットワークを活用し、障害者自立支援協議会や介護保険施設における理解や受け入れの促進に努めている。

就学・就労支援については、個別事例を通じて徐々に医療職や福祉職など関係機関との連携が進んできているところであり、システムとして構築することが今後の課題である。

県内の地域格差が認められることから、専門職を対象として症例検討や支援技法等の学習会を実施したり、圏域ごとに研修会や相談会を実施するなど均てん化の取組みに力を入れている。

ケ 長野県

高次脳機能障害者の受入れやサービス提供が可能な事業所等の調査を実施し、その結果をホームページ上で公開している。

就労支援の取組みとして、昨年度、障害者就業・生活支援センターや障害者総合支援センターについて、高次脳機能障害者からの相談状況や不足している社会資源に関する調査を実施した。今後、集計・分析の上、支援拠点機関等の関係機関で共有し、今後の支援に繋げていく予定である。

また、地域の作業所職員やジョブコー

チを対象とした勉強会を定期的に開催しており、受入れ可能な事業所が徐々に増えるなど確実に成果が表れている。

(2) 意見交換

①「支援拠点機関の運営や地域ネットワーク構築について」

高次脳機能障害者が住み慣れた地域で安心・安全に生活できるよう、地域における支援ネットワークの整備が求められている。

ブロック内の各県においては、その方法は様々であるが、いずれの県においても関係機関連絡会議の設置や医療福祉関係者を対象とした研修会等を通じたネットワーク構築の取組みが行われていることが確認できた。(別添資料2参照)

特に、保健所や医師会など地域における既存の社会資源やネットワークを活用した連携の方策について積極的に意見交換が行われ、いずれの県においても県内における均てん化を十分に意識して支援への取組みが行われていることが確認できた。

(3) 意見交換

②「就学・就労などの社会参加支援に対する実態把握や取組状況について」

就労支援については、主に個別の相談支援を通じて就労関係機関との連携が図られてきているところであるが、今後は就労準備から職場開拓、就労定着へとつながるシステムチックな支援体制を構築する必要性があることについて議論がなされた。

また、本人が高次脳機能障害を理解していない軽度障害者である場合、就職と離職を繰り返すなど定着困難となるケースが少なからず確認されており、就職後のフォローをどのように行っていくかが重要な課題であるとの認識がされた。

(4) 研究報告「均てん化に向けての地域医療職スキルアップ」

本職から、埼玉県において医療関係者向けに実施した「高次脳機能障害をテーマとしたグループワーク」について報告を行った。

これは、高次脳機能障害に関する知識の獲得だけに留まらず、高次脳機能障害者を支援するテクニックのスキルアップが必要と考えて実施したものである。支援拠点機関の症例をベースに入院中の評価から在宅復帰まで、更には外来でのフォローアップから病院を離れて行くところまで、どの様な支援が必要か、また、どのような点に留意しなければならないかについて議論を行った。参加者には大変好評であり、県内の均てん化を推進するためには、今後、地域ごとのグループワークの機会を設けて行くことの必要性を感じたところである。

D. 結論

平成24年度と比較し、ブロック内の各県において高次脳機能障害の普及啓発や支援体制の充実が進んでいることが確認できた。その一方、地域における関係機関とのネットワーク構築や高次脳機能障害に対応できる医療機関や障害福祉サービス事業所等の社会資源の把握・増加が課題となっている。

本年度は、就学・就労支援を事業のキーポイントとしたところ、既に関係機関と連携して支援を行うなど先進的な県もある一方、連携の方策を模索している県もあるなど、取組みの進捗状況は様々である。

平成26年度は、引き続き就学・就労支援を中心に事業を進め、その拡充を図るとともに、特にブロック内の均てん化を重点的に進めて行く。毎年度開催しているブロック会議は、ブロック内各県の取組みについて活発な情報交換や意見交換が行われる有用な場であり、ブロック内の均てん化への効果が大変に大きいことから継続して実施する。

E. 健康危険情報

特になし。

F. 研究発表

特になし。

G. 知的財産権の出願・登録状況

1. 特許取得

特になし。

2. 実用新案登録

特になし。

3. その他

特になし。

	茨城県	栃木県
1 支援拠点機関名 (住所) (電話番号)	茨城県立リハビリテーションセンター (笠間市鯉淵6528-2) (0296-77-0626) (0296-78-2605 高次脳機能障害相談用)	とちぎリハビリテーションセンター (宇都宮市駒生町3337-1) (028-623-6114 高次脳機能障害相談用)
2 支援コーディネーター (所属) (連絡先) (職種・員数)	相談・指導課 (0296-77-8614) 常勤2名(社会福祉士・心理職)※施設業務と兼務 非常勤職員1名(高次脳機能障害支援員)	相談支援部発達・高次脳機能障害支援課 (028-623-6114) 常勤3名(保健師、行政、作業療法士)
3 就学・就労などの社会参加支援に対する取組み状況(※障害児者の実態把握と分析などの調査研究を含む)	① 茨城県立リハビリテーションセンターが実施している就労移行支援事業の利用により支援を行っている。 ② 個別のケースに関しては障害者就業・生活支援センター等の地域の支援機関と連携を取るようになっている。 ③ 訓練施設連絡会を開催し、地域の障害者就業・生活支援センターにも声をかけて就労支援に関してのネットワーク構築を図っている。	① 就労機関ネットワーク構築に向け、公共職業安定所の新任(転入者)を対象とした研修や障害者就業・生活支援センター等担当者会議等に参加し、啓発、支援の実際等について情報交換をしている。 ② 就労に向けた個別支援に関しては、相談支援事業所、障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター等と連携し支援すると共に、地域の相談支援事業所連絡会等に参加し、連携の充実を図っている。 ③ 小児の社会参加支援に関しては、個別支援で対応している。 ④ 平成24年度に就労機関及び教育機関に社会資源把握を目的に調査を実施し、平成25年度は調査結果を分析した。
4 研修会やセミナーなどの開催状況(※予定を含む)	① 支援従事者研修会4回 ② 訓練施設連絡会4回	① 県民向けセミナー ② 医療機関等の専門職向け研修 ③ 行政職員等向け研修 ④ 福祉関係職員向け研修 ⑤ 家族教室、家族向けピアカウンセリング研修
5 その他の主な事業内容(※予定を含む)	① 相談支援(来所・電話、巡回) ② 普及啓発(小冊子、ホームページ、チラシ) ③ ネットワーク構築(特定相談支援事業所訪問) ④ 研修会(開催、講師派遣)	① 相談支援(来所・電話、巡回) ② 地域支援(出張相談、支援マニュアル) ③ 連携構築(支援連携協議会、家族会支援)
6 事業実施上の課題等	① 行政機関等においては担当者が人事異動で数年毎に交代するため、顔の見える継続的な関係を構築しづらい。 ② 予算の確保(普及啓発のための小冊子等の増刷費用等)。 ③ 事例検討会の開催等、関係機関の連携に活用できそうな場(機会)が少ない。 ④ 支援コーディネーターの役割を担える人材の育成。	① 相談支援従事者の専門性の確保と身近な機関でのバックアップ体制。 ② 診療可能な医療機関の増加に向けた取組と、医療と地域の連携体制。 ③ 県民の障害理解への普及啓発。

	群馬県	埼玉県
1 支援拠点機関名 (住所) (電話番号)	前橋赤十字病院 (前橋市朝日町三丁目21-36) (027-224-4585 代表) (027-224-2995 高次脳機能障害支援相談窓口専用)	埼玉県総合リハビリテーションセンター 高次脳機能障害者支援センター併設 (上尾市西貝塚148-1) (048-781-2222 代表) (048-781-2236 高次脳機能障害相談用)
2 支援コーディネーター (所属) (連絡先) (職種・員数)	医療社会事業課 (027-224-4585) (027-224-2995) 常勤 2名 (いずれも社会福祉士・精神保健福祉士)	相談部・地域支援担当 (048-725-0215) 常勤1名(CW) 非常勤職員1名(CW) ※上記2名を含む11名が兼務で高次脳機能障害者支援センターの相談業務を担当している。
3 就学・就労などの社会参加支援に対する取組み状況(※障害児者の実態把握と分析などの調査研究を含む)	① 高次脳機能障害支援連絡会議にて障害者就業・生活支援センターと一般相談支援事業所の方々と、就労の課題を地域支援の視点で検討した。 ② 通所リハビリテーション事業所研修会に講師派遣し、高次脳機能障害の方々に対する支援について理解を求めた。 ③ 高次脳機能障害支援情報マップ作成事業(損保協会自賠責運用益供出事業)のワーキンググループに参加し、県内の社会資源の二次調査を行った。 ④ 障害者職業センターとの連携。 ⑤ 高次脳機能障害者と家族の教室(こころの健康センター・支援拠点機関)等。	① 平成24年度は、支援ネットワーク構築のため、県内市町村および保健所に対して、高次脳機能障害者支援の状況についてアンケート調査・聞き取り調査を実施した。平成25年度より県内保健所の精神担当者会議への参加・研修等を実施している。 ② 就学・就労・職場復帰調整は、総合相談窓口での相談、専門外来での評価・診断、外来リハビリ、障害者支援施設利用(生活訓練から就労移行支援)において実施している。 ③ 日中活動の場については、相談支援事業所等から紹介・調整を受けることが多く、訪問にて事業所支援を行なっている。 ④ 障害者支援施設部門は、障害の適性に応じて、復職や就労に向けた訓練と支援を提供している。訓練は、障害の特性を踏まえた複数のメニューを設けて個別に対応している。
4 研修会やセミナーなどの開催状況(※予定を含む)	① 高次脳機能障害専門研修(こころの健康センター)	① 県民向けセミナー ② 市町村・関係機関等職員向け研修会 ③ 医療関係者向け研修会
5 その他の主な事業内容(※予定を含む)	① 個別支援 ② ケース会議 ③ 関係機関とのネットワーク構築 ④ 普及啓発 ⑤ 研修会の運営協力(助言、講師等) ⑥ (仮称)「高次脳機能障害あんしんブック」作成 ⑦ 高次脳機能障害定期相談	① 当事者・家族によるピア・カウンセリング事業
6 事業実施上の課題等	① 地域ネットワークづくりのための巡回相談等の実施にむけてのニーズ把握や実施に向けての課題等の検討。 ② 利用できる社会資源の調査及び利用にむけての啓発。 ③ 人材育成、支援ネットワークづくりをめざした研修のあり方。	① 関係機関・市町村とのより一層のネットワーク構築。 ② 小児高次脳機能障害に対する積極的支援のあり方。

	千葉県	神奈川県
1 支援拠点機関名 (住所) (電話番号)	<ul style="list-style-type: none"> ① 千葉県千葉リハビリテーションセンター 高次脳機能障害支援センター併設 (千葉県緑区菅田町1-45-2) (043-291-1831(代表)) ② 医療法人社団弥生会 旭神経内科リハビリテーション 病院 (松戸市栗ヶ沢789-10) (047-385-5566) ③ 医療法人社団鉄蕉会 亀田リハビリテーション病院 (鴨川市東町929) (04-7092-2211) 	<p>神奈川県リハビリテーション支援センター 高次脳機能障害支援室 (厚木市七沢516) 支援センター 046-249-2602 医療福祉総合相談室 046-249-2612</p>
2 支援コーディネーター (所属) (連絡先) (職種・員数)	<ul style="list-style-type: none"> ① 千葉リハビリテーションセンター ・高次脳機能障害支援センター 2名(心理発達治療士・SW) ・地域連携部 相談室 2名(SW) ・総合療育センター 愛育園 1名(指導員) ・障害者支援施設 更生園 2名(生活支援員) ② 旭神経内科リハビリテーション病院 3名(ST・OT・CW いずれも兼務) ③ 亀田リハビリテーション病院 2名(MSW・OT いずれも兼務) 	<p>相談支援コーディネーター (医療福祉総合相談室) (046-249-2612)</p> <p>(MSW 5名) ※地域担当 3名 病棟担当 2名</p>
3 就学・就労などの社会参加支援に対する取組み状況(※障害児者の実態把握と分析などの調査研究を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域生活復帰支援プロジェクト ② 成人高次脳リハビリテーションプロジェクト ③ 小児高次脳リハビリテーションプロジェクト ④ 就労移行支援プロジェクト ⑤ 地域在宅生活支援事業所との症例検討会議の開催 ⑥ 当事者及び家族会における集団活動への支援 ⑦ 地域活動支援センターへの支援 	<ul style="list-style-type: none"> ① H19年度より、障害保健福祉圏域を対象としたネットワーク作り事業を実施(H24年度までに県内6圏域での事業を終了)地域内では、相談支援事業所と連携した個別支援・地域支援を実施した。 また、就労支援については、障害者職業センター、就労支援センター、ハローワーク、しごとサポーター(県単事業)と連携した支援を行った。 その結果、地域での相談支援、神奈川県リハでの診断評価、専門的支援、地域での日中活動、職業準備性が整うことの就労支援、就労継続支援に至る一貫した支援体制が構築された。 ② 退院後に障害者手帳や自立支援医療の取得ができない方についても、診断書での福祉サービス利用がほぼ可能となっている。 また、退院後に利用する地域社会資源についても、相談支援事業所等から紹介・調整いただく場合もある。 ③ 小児高次脳機能障害についても、小児科医等と連携しつつ、フォローアップや介入を行っている。
4 研修会やセミナーなどの開催状況(※予定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ① 県民向けセミナー：高次脳機能障害リハ講習会 ② 医療機関向けセミナー：高次脳機能障害千葉懇話会 ③ 当事者家族向け交流会 ④ その他、介護福祉機関並びに市町村担当者向けセミナーへの協力：随時 ⑤ 地域サポート事業所3ヶ所との共同事業報告会 ⑥ 県社協主催の高次脳機能障害支援者講習会担当 ⑦ 支援従事者向け講習会 ⑧ 地域自立支援協議会部会における講演 	<ul style="list-style-type: none"> ① 高次脳機能障害セミナー理解編 ② 高次脳機能障害セミナー実務編 ③ 高次脳機能障害セミナー就労支援編 ④ 小児後天性脳損傷セミナー
5 その他の主な事業内容(※予定を含む)	<ul style="list-style-type: none"> ① 高次脳機能障害者支援情報マップ作成 ② 自動車運転再開に関する評価と支援の検討 	<ul style="list-style-type: none"> ① 事例検討会(圏域開催、事業所内開催) ② 巡回相談 ③ 地域内での当事者家族支援への協働(相模原市、藤沢市、大和市、ナナの会) ④ 政令市との情報交換会、高次脳機能障害機関との連絡会 ⑤ 圏域内ネットワーク作り事業実施3年後の実態調査
6 事業実施上の課題等	<ul style="list-style-type: none"> ① 地域支援拠点機関における専従者の確保。 ② 高次脳機能障害の評価や治療に携わるセラピストの充足。 ③ 効果的な普及活動方法。 	<ul style="list-style-type: none"> ① 高次脳機能障害に特化した相談支援事業所間の連携

	新潟県	山梨県
1 支援拠点機関名 (住所) (電話番号)	新潟県高次脳機能障害相談支援センター(新潟県精神保健福祉センター内) (新潟市中央区上所2丁目2-3 新潟ユニゾンプラザハート館) (025-365-0177)	甲州リハビリテーション病院 (山梨県高次脳機能障害者支援センター) 笛吹市石和町四日市場2031 (055-262-3121)
2 支援コーディネーター (所属) (連絡先) (職種・員数)	新潟県高次脳機能障害相談支援センター(新潟県精神保健福祉センター内) (025-365-0177) 非常勤職員1名(専任) ※県精神保健福祉センターの精神保健福祉相談員(6名)も相談業務等を兼務している。	山梨県高次脳機能障害者支援センター (055-262-3121) 医師(常勤兼務2名 ※センター長を含む) 社会福祉士・精神保健福祉士(常勤1名) 社会福祉士(常勤兼務1名) 作業療法士(常勤兼務3名、非常勤兼務1名) 言語聴覚士(常勤兼務1名) 臨床心理士(常勤兼務1名) 看護師(常勤兼務2名)
3 就学・就労などの社会参加支援に対する取組み状況(※障害児者の実態把握と分析などの調査研究を含む)	① 今年度、高次脳機能障害者の福祉就労の実態把握のための調査を実施した。結果のまとめや課題等の整理は来年度に行う予定である。 ② 児童については、今年度は個別事例を通じた支援にとどまった。	① 個別の事例を通じた関係機関との連携 ② 関係機関への普及啓発、研修会等での協力の呼びかけ ・個別の事例を通じた連携、支援に留まる ・実態把握などは出来ていない
4 研修会やセミナーなどの開催状況(※予定を含む)	① 地域支援拠点担当職員研修会 ② 医療関係職員研修会 ③ 圏域別支援従事者研修会 ④ ケース検討会 ⑤ 県民向けフォーラム	① 県民向け研修会 ② 圏域別研修会(専門職・一般) ③ 専門職向け支援手法研修会 ④ 圏域別出前相談会
5 その他の主な事業内容(※予定を含む)	① 家族教室・家族のつどい ② 支援拠点運営委員会 ③ 地域支援拠点連絡会議 ④ 福祉就労の実態調査の実施	① 関係団体への研修講師派遣 ② 高次脳機能障害および支援拠点の広報 ・パンフレットの配布 ・ホームページでの情報発信
6 事業実施上の課題等	① 地域での高次脳機能障害についての相談窓口の周知の不足。 ② 受傷後、長期経過したケースについて、精査、診断が可能な医療機関の把握と開拓。 ③ 退院後在宅生活が困難なケースについて、受け入れ先の把握と開拓。	① 地域支援ネットワークの構築 個別事例への支援に留まっている。 ② 事業開始後の県内の変化等、実態把握や事業の評価が必要。

		長野県
1	支援拠点機関名 (住所) (電話番号)	① 長野県立総合リハビリテーションセンター (長野市大字下駒沢618-1) (026-296-3953 代表) ② JA長野厚生連 佐久総合病院 (佐久市臼田197) (0267-82-3131 代表) ③ 社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 (松本市本庄2-5-1) (0263-33-8600 代表) ④ 医療法人(社団) 健和会 健和会病院 (飯田市鼎中平1936) (0265-23-3115 代表)
2	支援コーディネーター (所属) (連絡先) (職種・員数)	① 長野県立総合リハビリテーションセンター 更生相談室 (026-296-3953 代表) 常勤1名(兼務)身体障害福祉司(心理)ほか所内各部署で 対応 ② JA長野厚生連 佐久総合病院 医療相談室(0267-82-3131 代表) 常勤1名(兼務)MSWほか4名 ③ 社会医療法人財団 慈泉会 相澤病院 医療連携センター(0263-33-8600 代表) 常勤1名(兼務)MSW ④ 医療法人 健和会 健和会病院 リハビリテーション科(0265-23-3115 代表) 常勤1名(兼務)MSWほか1名
3	就学・就労などの社会参加支援に対する取組み状況(※障害児者の実態把握と分析などの調査研究を含む)	① H24年度に高次脳機能障害者の受入れ可能な事業所等の調査を実施し、結果一覧をホームページに掲載。随時内容を更新している。 (就労系は H26.3末時点で42事業所が受入れ可) 【長野県】 ② 施設部門において高次脳機能障害者の一般就労・福祉的就労を目的とした支援を実施している。模擬会社活動を中心に、1日を通じた訓練プログラム(個別訓練、集団訓練)を組んでおり、社会生活に近い状況を作っている。 【県立総合リハビリテーションセンター】 ③ 地域の作業所職員、就労支援員及びジョブコーチを集めて月1回グループ訓練の勉強会を行っている。 【相澤病院】 ④ 高次脳機能障害者の就労支援のため、協議会就労部会へ月1回参加。【健和会病院】
4	研修会やセミナーなどの開催状況(※予定を含む)	① 高次脳機能障害研修会(県内4圏域ごとに年1回開催)
5	その他の主な事業内容(※予定を含む)	① 高次脳機能障害支援拠点病院連絡会議の開催 ② 県HP上の高次脳機能障害に関するページの改修を行い、必要な情報を見易い形で提供、普及啓発を行っていく。 ③ 障害者総合支援センターを対象に、高次脳機能障害者からの相談内容や不足していると思われる社会資源に関する調査を実施した。集計結果を支援拠点機関等の関係機関で共有し、対応を検討していく。
6	事業実施上の課題等	① 地域支援ネットワークの構築(医療機関、障害福祉サービス事業所、総合支援センター等) ② 社会資源(障害福祉サービス事業所等)の把握及び増加に向けた取組

平成25年度関東甲信越ブロック高次脳機能障害関係研修会・セミナー・連絡会議等の実施状況

○ 茨城県（支援拠点機関：茨城県立リハビリテーションセンター）

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
平成25年度第1回高次脳機能障害者支援従事者研修会	茨城県立リハビリテーションセンター	相談支援事業所 社会福祉協議会	H25.5.31	19名	演題：高次脳機能障害者支援について 講師：県立リハビリテーションセンター職員
平成25年度第2回高次脳機能障害者支援従事者研修会	茨城県立リハビリテーションセンター	市町村・社協・セラピスト	H25.9.6	27名	演題：自賠責保険について 講師：日本損保協会 大坪護氏
平成25年度第3回高次脳機能障害者支援従事者研修会	茨城県立リハビリテーションセンター	相談支援事業所 社会福祉協議会	H25.12.13	22名	演題：高次脳機能障害者支援と県立リハビリテーションセンターの役割 講師：県立リハビリテーションセンター職員
平成25年度第4回高次脳機能障害者支援従事者研修会	茨城県立リハビリテーションセンター	心理士	H26.2.27	29名	演題：WAIS-IIIについて 講師：筑波大学准教授 山中克夫氏
平成25年度第1回高次脳機能障害者支援施設連絡会	茨城県立リハビリテーションセンター	高次脳機能障害者支援施設	H25.6.10	13名	アセスメントとプランニングの事例検討
平成25年度第2回高次脳機能障害者支援施設連絡会	茨城県立リハビリテーションセンター	高次脳機能障害者支援施設	H25.10.4	10名	事例検討
平成25年度第3回高次脳機能障害者支援施設連絡会	茨城県立リハビリテーションセンター	高次脳機能障害者支援施設	H26.1.31	19名	施設見学、事例検討
平成25年度第4回高次脳機能障害者支援施設連絡会	茨城県立リハビリテーションセンター	高次脳機能障害者支援施設	H26.3.14	14名	伝達講習、事例検討
平成25年度第1回高次脳機能障害者支援システム整備協議会	茨城県立リハビリテーションセンター	協議会委員	H25.7.22	9名	平成25年度の施策の実施状況について 関係機関との連携の構築について
平成25年度第2回高次脳機能障害者支援システム整備協議会	茨城県立リハビリテーションセンター	協議会委員	H26.2.28	8名	平成25年度の施策の実施状況について 平成26年度の施策の実施計画について
平成25年度第1回地域リハ支援体制連絡会議	茨城県立医療大学 付属病院	医療従事者	H25.10.30	74名	①平成25年度新規指定機関について ②平成26年度以降の茨城県地域リハビリテーションの体制について
平成25年度第2回地域リハ支援体制連絡会議	茨城県立医療大学 付属病院	医療従事者	H26.3.13	74名	①平成25年度地域リハ指定機関の活動報告について ②平成26年度以降の地域リハビリテーション総合支援事業について
市町村障害者福祉担当職員研修会	福祉相談センター	市町村障害福祉担当者	H25.4.20	80名	演題：高次脳機能障害者支援について 講師：県立リハビリテーションセンター職員
茨城県心身障害者福祉協会総会行政説明	茨城県心身障害者福祉協会	施設長	H25.6.10	80名	演題：高次脳機能障害者支援について 講師：県立リハビリテーションセンター職員
茨城県身体障害者相談員福祉連合会研修	茨城県身体障害者相談員福祉連合会	市町村職員 身体障害者相談員	H25.7.12	150名	演題：高次脳機能障害者への支援について 講師：県立リハビリテーションセンター職員
ひたちなか常陸太田医療圏勉強会	志村大宮病院	医療従事者	H25.7.13	30名	演題：生活期における高次脳機能障害者の支援 講師：県立リハビリテーションセンター職員
茨城県回復期リハビリテーション懇話会研修会	茨城県回復期リハビリテーション懇話会	医療従事者	H25.7.20	120名	演題：リハビリ職に必要な高次脳機能障害の最新の知見 講師：国際医療福祉大学教授 鈴木孝治氏
第6回 つくば高次脳機能障害者支援ネットワーク会議	筑波記念病院	地域支援者	H25.7.31	30名	事例検討
脳損傷友の会いばらき事例検討会	脳損傷友の会いばらき	家族	H25.9.3	7名	事例検討 講師：県立リハビリテーションセンター職員
平成25年度茨城県リハビリ講習会	茨城県リハビリ講習会実行委員会	支援者・当事者家族	H25.9.15	100名	第1部：高次脳機能障害者の訓練・支援・連携の実際 第2部 演題：地域で支える高次脳機能障害者のリハビリテーション 講師：東京慈恵医科大学附属病院 渡邊修氏
土浦市一中地区民生委員児童委員協議会視察研修	土浦市社協	民生委員・児童委員	H25.9.27	24名	演題：「見えない」障害、高次脳機能障害について 講師：県立リハビリテーションセンター職員
茨城県水戸特別支援学校内研修会	水戸特別支援学校	水戸特別支援学校教員	H25.10.11	100名	演題：高次脳機能障害の原因と症状とその対応 講師：県立リハビリテーションセンター職員
第199回茨城県内科学会	茨城県内科学会	内科医	H25.10.27	80名	演題：内科医が知っておきたい「高次脳機能障害者」の概要と支援の現状 講師：茨城県立医療大学付属病院 神経内科准教授 河野豊氏
平成25年度第2回障害福祉サービス事業所合同研修会	ひたちなか市基幹型相談支援センター	障害福祉サービス事業所	H25.11.21	56名	演題：障害者の地域生活を支えるとは 講師：デイサービスあいの家 管理者
看護協会研修	看護協会	看護師	H25.12.4	62名	演題：高次脳機能障害とリハビリテーション 講師：①県立医療大学准教授 山川百合子 ②県立リハビリテーションセンター職員
看護連盟研修	看護連盟	看護師	H26.2.7	56名	演題：高次脳機能障害者への対応 講師：県立リハビリテーションセンター職員
会田記念リハビリテーション病院職員研修	会田記念リハビリテーション病院	病院職員	H26.3.10	70名	演題：高次脳機能障害者への対応 講師：県立リハビリテーションセンター職員

○ 栃木県（支援拠点機関:とちぎリハビリテーションセンター）

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害セミナー	とちぎリハビリテーションセンター	県民	H25.11.3	188名	「高次脳機能障害の理解～精神症状、社会的行動障害への対応～」 講師:東京福祉大学社会福祉学部教授 埼玉県総合リハビリテーションセンター医師 先崎 章 氏
相談支援研修会	とちぎリハビリテーションセンター	相談支援専門員、 市町担当者	H25.7.5	53名	「高次脳機能障害とともに 地域で暮らすために、病態の理解」 講師:国際医療福祉大学保健医療学部言語聴覚学科 穴水 幸子氏(精神科医) 「高次脳機能障害の方の相談支援のポイント」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 「神経心理学的検査の実際」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員
医療従事者研修	団体への委託事業	言語聴覚士等	H26.1.26	67名	「高次脳機能障害の診かたと対応の考え方」 講師:市川高次脳機能障害相談室 主宰 小嶋 知幸 氏 シンポジウム「栃木県における高次脳機能障害者の支援例」(仮)
医療従事者研修	団体への委託事業	作業療法士等	H26.1.11	42名	「高次脳機能障害者へのリハビリテーションの展開」 講師:群馬医療福祉大学作業療法学科 准教授 山口 智晴 氏 「栃木県における高次脳機能障害者支援の取組」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 事例演習
実務研修	とちぎリハビリテーションセンター	福祉サービス事業所職員、 相談支援従事者、市町職員等	①H25.7.2 ②H25.7.26 ③H25.8.30	①21名 ②19名 ③34名	①「私の地域での支援」 事例提供者:足利障害者相談支援センター 長 秀紀 相談支援専門員 障害特性開設:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 グループワーク(サービス等利用計画の作成等) ②「私の地域での支援」 事例提供者:相談支援事業所サポートみゆき 上久保 覚 相談支援専門員 障害特性解説:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 グループワーク ③「私の地域での支援」 事例提供者:地域生活支援センターゆずり葉 遠藤 真史施設長 障害特性解説:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 グループワーク
ピアカウンセリング研修	とちぎリハビリテーションセンター	とちぎ高次脳機能障害 友の会会員	①H25.7.16 ②H25.9.3	① 4名 ② 5名	①「面接相談の実際」 講師:特定非営利法人 東京高次脳機能障害協議会(TKK) 理事長 細見 みゆ氏 ②「ピアカウンセリングについてのまとめ」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員
福祉施設職員研修	栃木県社会福祉協議会	福祉施設支援員、 市町職員等	H25.7.30	34名	「高次脳機能障害の理解と対応について」 講師:国際医療福祉大学 前田 真治 教授 「栃木県の高次脳機能障害支援の取組について」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員
法人後見支援員養成研修	栃木県社会福祉協議会	社会福祉協議会職員 等	H25.8.29	20名	「高次脳機能障害について」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員
家族教室	とちぎリハビリテーションセンター	当事者の家族	①H26.2.13 ②H26.2.19	定員20名	①「高次脳機能障害と症状について」 講師:とちぎリハビリテーションセンター医師 「生活上の対応などについて」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 ②「地域での福祉サービスについて」 講師:とちぎリハビリセンター施設部職員 「家族会について」&座談会 講師:とちぎ高次脳機能障害友の会
情報交換会	とちぎリハビリテーションセンター	医療従事者 相談支援従事者、市町職員等	H26.3.4	56名	①「障害福祉サービス(高次脳機能障害)について」 講師:とちぎリハビリテーションセンター相談支援部職員 ②「生活訓練を利用した事例」 講師:とちぎリハビリテーションセンター施設部職員 ③「地域の事例」 講師:芳賀地区障害児者相談支援センター 石崎 智 コーディネーター ④意見交換
高次脳機能障害支援連携調 協議会	とちぎリハビリテーションセンター	当事者団体、施設団 体・関係機関団体代表 者等	①H25.11.14 ②H26.2.6	①15名 ②15名	①支援拠点機関の実績について、支援事例集の作成について ②平成26年度の支援拠点機関の事業について等

○ 群馬県（支援拠点機関:前橋赤十字病院）

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
ぐんま高次脳機能障害リハ ビリテーション講習会	ぐんま高次脳機能障害リハ ビリテーション講習会実行 委員会(群馬県後援)	医療機関、リハビリ関 係者、就労支援関係 者、介護関係者、行政 関係者、当事者、家族 等	H25.10.19	176名	第4回ぐんま高次脳機能障害リハビリテーション講習会 演題:「集団行動支援プログラムの紹介と当プログラムの機能的 再構築への影響」 講師:橋本 圭司先生(独立行政法人国立成育医療研究センター)
高次脳機能障害専門研修	こころの健康セン ター	高次脳機能障害者支 援に関わる医療機関職 員、相談支援、就労支 援関係者、当事者、家 族	H26.3.9	110名	高次脳機能障害を支える～支援の現在と発展に向けて～ 講演①高次脳機能障害の理解と対応 講師:老年病研究所附属 酒井 保治郎 先生 講演②支援拠点機関から見てきたこと 講師:前橋赤十字病院 中井 正江 先生

高次脳機能障害者と家族の教室	こころの健康センター	高次脳機能障害と診断された当事者とその家族	毎月第1、3水曜日	当事者 実15名 延136名 家族 実13名 延97名	・自己紹介(スピーチを含む) ・レクリエーション ・認知リハビリテーション ・家族ミーティング ・ミニ講座 ・軽スポーツ ・調理実習 ・買い物実習 ・その他
高次脳機能障害支援連絡会連携バス(仮称)ワーキング	県障害政策課	県立障害者リハビリテーションセンター、医療機関代表、支援拠点機関、こころの健康センター、障害政策課	①H25.12.13 ②H26.1.17 ③H26.2.6	①6名 ②6名 ③6名	連携のための情報共有ツール「ぐんま高次脳機能障害あんしんブック(仮)」の検討
高次脳機能障害支援連絡会	県障害政策課	当事者家族、県立障害者リハビリテーションセンター、障害者職業センター、医療機関代表、市町村代表、支援拠点機関、こころの健康センター、障害政策課	H25.8.21	14名	・群馬県高次脳機能障害支援拠点機関活動状況について(平成24年度報告、相談2事例報告) ・平成25年度群馬県高次脳機能障害支援普及事業事業計画について ・支援のための連携について ・意見交換
			H26.3.19	14名	・高次脳機能障害支援のための連携について ぐんま高次脳機能障害あんしんブック(仮) ・群馬県高次脳機能障害支援拠点機関活動状況について ・こころの健康センターにおける高次脳機能障害者支援事業について ・その他

○ 埼玉県 (支援拠点機関:埼玉県総合リハビリテーションセンター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
リハビリテーションテーマ別研修「高次脳機能障害」1日目	埼玉県総合リハビリテーションセンター	関係機関職員	H25.9.6	82名	①医学的基礎知識 ②神経心理学的理解と認知リハビリテーション
リハビリテーションテーマ別研修「高次脳機能障害」2日目	埼玉県総合リハビリテーションセンター	関係機関職員	H25.9.10	81名	支援の実際と対応の工夫(医療部門での訓練)、(看護)、(相談支援)、(障害者支援施設での訓練と支援)、(体育訓練)
高次脳機能障害理解促進セミナー「高次脳機能障害」について	県障害者福祉推進課	一般県民等	H25.11.2	130名	①講演「高次脳機能障害」について 講師:総合リハビリテーションセンター 市川 忠 医療局長 ②講演「高次脳機能障害の夫とともに」 講師:イラストレーター 柴本 礼 氏
高次脳機能障害に係る医療関係者向け専門研修会その1	県障害者福祉推進課	医師、PT、OT、ST、臨床心理士等	H25.12.10	74名	事例検討(グループワーク) 総合リハビリテーションセンター 市川 忠 医療局長
高次脳機能障害に係る医療関係者向け専門研修会その2	県障害者福祉推進課	医師、PT、OT、ST、臨床心理士等	H26.2.10	192名	講演「高次脳機能障害の診断・治療・リハビリテーション」 講師:国立障害者リハビリテーションセンター学院 中島 八十一 学院長
高次脳機能障害支援体制整備推進委員会	県障害者福祉推進課	当事者団体、施設団体、関係機関代表者等	H26.2.5	8名	県内における支援体制整備の実態を把握し、今後の高次脳機能障害者支援のあり方を検討することにより支援体制の整備を図る。
関東甲信越・東京ブロック合同会議	埼玉県総合リハビリテーションセンター	関東甲信越・東京ブロックの支援拠点機関及び行政の職員	H25.8.1	42名	講演「高次脳機能障害支援普及事業 平成25年度事業運営方針」 講師:国立障害者リハビリテーションセンター学院 中島 八十一 学院長 議題 ①各都県支援拠点機関における事業の進捗状況について ②支援拠点機関の運営や地域ネットワーク構築について ③修学・就労などの社会参加支援に対する実態把握や取組状況について
高次脳機能障害地域交流会(ピア・カウンセリング事業)	県委託団体	当事者とその家族等	18回	—	当事団体によるピア・カウンセリング等の実施

○ 千葉県 ① (支援拠点機関:千葉リハビリテーションセンター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
第3回高次脳機能障害と自動車運転勉強会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	運転再開支援に携わる、あるいは携わろうとする医療関係者	H25.4.21	25名	①講義「標準注意検査法(CAT)について(内容と解釈等)」 ②講義「自動車教習所との連携について(実車評価の取り組み開始の経験から)」 ③ドライビングシミュレーター体験
第4回高次脳機能障害と自動車運転勉強会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	運転再開支援に携わる、あるいは携わろうとする医療関係者	H25.7.21	20名	①講演「千葉運転免許センター 適性相談室の業務紹介」 ②参加者との懇談会
第9回高次脳機能障害リハビリテーション千葉懇話会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	一般県民、関係機関職員	H25.9.19	122名	テーマ:「医療機関における就労支援～復職支援を中心に～」 神奈川県総合リハビリテーションセンター 神奈川県総合リハビリテーションセンター 職能科 科長 地域支援センター 高次脳機能障害支援室 技幹 泉 忠彦 氏
第5回高次脳機能障害と自動車運転勉強会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	運転再開支援に携わる、あるいは携わろうとする医療関係者	H25.10.27	11名	①事例検討「実車評価実施例」 ②「第1回 自動車運転再開とリハビリテーションに関する研究会」報告
第1回カフェ輪駆	千葉県千葉リハビリテーションセンター	当事者	H25.11.16	10名	新たに就職された方、復職された方及び働いて少し年月が経っている方等を対象に、自己紹介、クイズ等を通じ、それぞれの経験談等を共有するための交流会を開催

第10回高次脳機能障害リハビリテーション講習会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	一般県民、関係機関職員	H26.1.18	100名	テーマ:「地域で生きる高次脳機能障害者を支える」 基調講演①:全国の普及事業に関する動向 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部精神・障害保健課 課長補佐 福生 泰久 氏 基調講演②:島根県に於ける高次脳機能障害者を地域で支えるシステム作りとその成果 エスポータル出雲クリニック 統括 土江 啓悦 氏 シンポジウム:「地域で支える具体的な取り組みと課題」
第6回高次脳機能障害と自動車運転勉強会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	運転再開支援に携わる、あるいは携わろうとする医療関係者	H26.1.19	8名	①事例検討「実車評価実施例」 ②高次脳機能学会報告
第12回高次脳機能障害交流会	千葉県千葉リハビリテーションセンター	当事者とその家族	H26.3.8	79名	テーマ:「学ぶ・暮らす・働く」 ～あなたの身近にある相談場所～ 全大会及び分科会の実施 学ぶ:袖ヶ浦特別支援学校 塩田順子氏 暮らす:若葉泉の里大宮センター 桐木彩氏 働く:千葉障害者職業センター 羽原洋陽氏

○ 千葉県 ② (支援拠点機関:旭神経内科リハビリテーション病院)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
H25年 第1回 高次脳機能障害講習会「コミュニケーション障害について」	柏市地域活動支援センターまんでん柏	支援従事者・当事者家族	H25.6.17	34名	失語症や構音障害についての基礎知識と対応の仕方、簡単な訓練方法など
H25年 第2回 高次脳機能障害講習会「地理的障害～道に迷う高次脳機能障害～」	生活クラブ風の村とんぼ舎柏(旧まんでん柏)	支援従事者・当事者家族	H25.10.28	17名	道順障害や地誌的見当識障害についての基礎知識と対応等について
シンポジウム「高次脳機能障害について」	旭神経内科リハビリテーション病院	行政機関、ケアマネ等支援従事者、当事者家族	H25.11.22	118名	基調講演 「高次脳機能障害の医学的基礎について」 「トラブルになりやすい行動とその対処について」 「通所施設における高次脳機能障害支援と通所者の抱える問題について」 「初期相談からサービス等利用計画につながった支援の実践について」 「本人・家族が伝えたいこと」 パネルディスカッション 「高次脳機能障害支援における関わり方・連携について」
復職・就労者懇談会	旭神経内科リハビリテーション病院	復職された当事者及び就職活動中の当事者家族	H26.2.9	当事者3名 家族1名	復職・就労された当事者・家族、就労に向け活動中の当事者家族の意見交換会や悩み相談等

○ 千葉県 ③ (支援拠点機関:亀田メディカルセンター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
「子どもの高次脳機能障害ってなあに？」	亀田メディカルセンター	当事者、家族、保健福祉医療教育関係者等	H25.10.20	48名	小児の高次脳機能障害の概要の講義、当事者体験談講義
家族の集い「グループホームその実際を知ろう」	亀田メディカルセンター	当事者、家族	H25.12.1	15名	高次脳機能障害の方が入居されているグループホームの代表からのお話、交流会
映画上映会「フラッシュバックメモリー3D」	亀田メディカルセンター	一般	H26.3.16	181名	映画上映会

○ 神奈川県 (支援拠点機関:神奈川県リハビリテーション支援センター)

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害セミナー理解編	神奈川県リハビリテーション支援センター	一般	H25.8.24	217名	医学的理解・家族の立場から・心理の立場から・OTの立場から・就労支援の立場から・相談支援の立場から・地域での実践者の立場から
高次脳機能障害セミナー小児編	神奈川県リハビリテーション支援センター	支援者向け	H25.11.10	30名	医学的理解・心理・OT・ST・SW・院内学級
高次脳機能障害セミナー実務編	神奈川県リハビリテーション支援センター	支援者向け	H25.12.7	70名	医学的理解・心理・OT・PT・就労支援・相談支援
高次脳機能障害セミナー就労支援編	神奈川県リハビリテーション支援センター	支援者向け	H25.10.12	49名	医学的理解・就労支援・就労支援機関の紹介・連携事例・事例検討
神奈川県高次脳機能障害相談支援体制連携調整委員会	神奈川県リハビリテーション支援センター	行政機関・職域団体・家族会	H26.3.3	15名	神奈川県における高次脳機能障害相談及び支援の整備についての現状確認、今後の方向性を検討

○ 新潟県（支援拠点機関:新潟県高次脳機能障害相談支援センター）

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害相談支援に係る保健所担当職員研修会	新潟県精神保健福祉センター	保健所相談員	H25. 6. 12	14名	講義「高次脳機能障害の具体的支援～発症から回復支援まで～」(ゆきぐに大和病院地リハビリテーション科 井口光開氏)
第1回高次脳機能障害相談支援地域拠点連絡会議	新潟県精神保健福祉センター	保健所相談員	H25. 6. 12	14名	地域の支援拠点における高次脳機能障害支援の取り組みについて ①地域拠点における相談支援実績について ②圏域別支援従事者研修について ③情報交換 等
高次脳機能障害者支援に係る医療関係職員研修会	新潟県精神保健福祉センター	医療関係者、行政職員等	H25. 11. 2	119名	講義「高次脳機能障害の医学的リハビリテーションの現状とその課題」(神奈川リハビリテーション病院高次脳機能障害支援室長 青木重陽先生)
新潟県高次脳機能障害支援拠点運営委員会	新潟県福祉保健部障害福祉課	関係機関代表者等	H25. 11. 11	18名	①H24及びH25上半期事業実績報告について ②相談支援体制の現状と課題 ③高次脳機能障害に関する各種調査の実施について
佐渡圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(佐渡地域振興局健康福祉環境部)	佐渡圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 8. 9	51名	①情報提供(支援コーディネーター) ②講義と事例検討(グループワーク) 「事例から学ぶ高次脳機能障害の基礎知識」(新潟医療福祉大学教授 今村徹氏)
県央圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(三条地域振興局健康福祉部)	県央圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 10. 25	64名	①情報提供(支援コーディネーター) ②講義「高次脳機能障害についての基礎知識」(みどり病院リハビリテーション科医師) ③講義「新潟県障害者リハビリテーションセンターの紹介」 ④事例報告「介護保険・障害福祉サービスを利用した支援の実例」(相談支援センター、障害福祉サービス事業所、地域包括支援センター)
新潟圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(新潟地域振興局健康福祉部)	新潟圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 11. 18	83名	①講義「高次脳機能障害のタイプとその対応の仕方」(新潟医療福祉大学教授) ②講話:地域活動支援センター ③事例検討「脳出血で入院中の40代男性の退院後の地域支援について」
上越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(上越地域振興局健康福祉環境部)	上越圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 11. 26	23名	①活動報告(地域活動支援センター) ②情報提供(病院、障害福祉サービス事業所、支援コーディネーター) ③グループワーク「実施可能な高次脳機能障害の支援体制について」
魚沼圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(魚沼地域振興局健康福祉部)	魚沼圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 12. 4	46名	①情報提供(支援コーディネーター) ②講義「高次脳機能障害患者の具体的支援～発症から社会復帰までの連携の重要性～」(ゆきぐに大和病院リハビリテーション科・地域連携室職員) ③グループワーク「支援チームで考えよう。高次脳機能障害支援について」
中越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(長岡地域振興局健康福祉環境部)	中越圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 12. 6	27名	①講義「高次脳機能障害の基礎知識とその対応について」(長岡中央総合病院言語聴覚士) ②事例報告「高次脳機能障害支援の実例」(障害者就業・生活支援センター、支援コーディネーター)
下越圏域高次脳機能障害支援従事者研修会	地域支援拠点(村上地域振興局健康福祉部)	下越圏域において高次脳機能障害者の支援に携わる保健医療福祉関係者	H25. 12. 9	23名	①講義「高次脳機能障害を理解する」(新潟医療福祉大学教授) ②事例報告「障害特性に合わせた支援により就労に結びついた事例」(障害者就業・生活支援センター、障害者職業センター、支援コーディネーター) ③グループワーク
第2回高次脳機能障害相談支援地域拠点連絡会議	新潟県精神保健福祉センター	保健所相談員	H26. 3. 3	10名	①高次脳機能障害の国の運営方針と県の取り組みについて ②圏域別支援従事者研修会について ③家族のつどい、家族教室の実施状況報告 ④情報交換 等
高次脳機能障害ケース検討会	新潟県精神保健福祉センター	高次脳機能障害者等の相談支援従事者、新潟神経心理懇話会会員	H26. 3. 3	29名	事例検討「精神不穏が強く退院後の生活が困難であり、病院から地域への連携や柔軟なサービス提供が必要となったケース」 助言者:新潟医療福祉大学教授 今村徹氏
新潟県高次脳機能障害支援フォーラム	新潟県高次脳機能障害相談支援センター(新潟県精神保健福祉センター)	一般県民、当事者とその家族、支援者等	H26. 3. 8	139名	①講演「あきらめないリハビリ～高次脳機能障害を抱えた言語聴覚士の経験から～」(神戸大学大学院保健学科研究科客員教授 関啓子氏) ②当事者、家族からの体験談
高次脳機能障害家族のつどい	新潟県精神保健福祉センター、脳外傷友の会「スワン」	高次脳機能障害者の家族	H24. 6～ H25. 2 隔月全5回	延べ21名	当事者の家族による語り合い、グループワーク
高次脳機能障害家族のつどい	地域支援拠点(長岡地域振興局健康福祉環境部)	高次脳機能障害者の家族	H25. 9～ H26. 1 隔月全3回	延べ16名	当事者の家族による語り合い、グループワーク
高次脳機能障害家族のつどい	地域支援拠点(魚沼地域振興局健康福祉環境部)	高次脳機能障害者の家族	H25. 11、 H26. 3 全2回	延べ9名	当事者の家族による語り合い、グループワーク
高次脳機能障害家族教室	新潟県精神保健福祉センター	高次脳機能障害者の家族	H25. 9～12 月1回全4回	延べ22名	①講義「高次脳機能障害について」(三之町病院言語聴覚士) ②講話「家族の体験談」(脳外傷友の会スワン会員) ③講義「高次脳機能障害の相談支援、就労支援について」 ④語り合い

○ 山梨県（支援拠点機関：甲州リハビリテーション病院（山梨県高次脳機能障害者支援センター））

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H25.4.23	14名	症例検討、支援技法等
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H25.5.28	18名	症例検討、支援技法等
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H25.6.25	16名	症例検討、支援技法等
山梨県高次脳機能障害者支援センター 講演会	山梨県障害福祉課/山梨県高次脳機能障害者支援センター	一般県民	H25.7.6	311名	講演「高次脳機能障害の夫と共に」 講師：柴本礼氏 活動報告：山梨高次脳機能障害を支える会「甲斐路」
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H25.7.23	18名	症例検討、支援技法等
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H25.8.27	13名	症例検討、支援技法等
高次脳機能障害圏域別研修会（中北保健福祉事務所峡北支所）	山梨県高次脳機能障害者支援センター	専門職、当事者、家族等	H25.9.6	10名	山梨県高次脳機能障害者支援センターの活動報告（支援C 岩間英輝） 高次脳機能障害者支援について（社会福祉士 岩間英輝） 我が地域の（高次脳機能）障害者支援体制について（中北圏域マネージャー出口幸英氏）
高次脳機能障害圏域別研修会（峡南保健福祉事務所）	山梨県高次脳機能障害者支援センター	専門職、当事者、家族等	H25.9.19	14名	山梨県高次脳機能障害者支援センターの活動報告（支援C 岩間英輝） 高次脳機能障害者支援について（社会福祉士 岩間英輝） 我が地域の（高次脳機能）障害者支援体制について（峡南圏域マネージャー篠峯秀仁氏）
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H25.9.24	16名	症例検討、支援技法等
高次脳機能障害圏域別研修会（甲府市健康の社センターアネシス）	山梨県高次脳機能障害者支援センター	専門職、当事者、家族等	H25.10.11	7名	山梨県高次脳機能障害者支援センターの活動報告（支援C 岩間英輝） 高次脳機能障害者支援について（作業療法士 平原由梨子） 我が地域の（高次脳機能）障害者支援体制について（中北圏域マネージャー出口幸英氏）
高次脳機能障害圏域別研修会（峡東保健福祉事務所）	山梨県高次脳機能障害者支援センター	専門職、当事者、家族等	H25.10.18	15名	山梨県高次脳機能障害者支援センターの活動報告（支援C 岩間英輝） 高次脳機能障害者支援について（臨床心理士 三澤知恵） 我が地域の（高次脳機能）障害者支援体制について（峡東圏域マネージャー吉村純氏）
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H25.10.22	12名	症例検討、支援技法等
高次脳機能障害圏域別研修会（富士・東部保健福祉事務所）	山梨県高次脳機能障害者支援センター	専門職、当事者、家族等	H25.10.25	15名	山梨県高次脳機能障害者支援センターの活動報告（支援C 岩間英輝） 高次脳機能障害者支援について（臨床心理士 三澤知恵） 我が地域の（高次脳機能）障害者支援体制について（富士東部圏域マネージャー渡辺典子氏）
高次脳機能障害圏域別研修会（大月市総合福祉センター）	山梨県高次脳機能障害者支援センター	専門職、当事者、家族等	H25.11.8	24名	山梨県高次脳機能障害者支援センターの活動報告（支援C 岩間英輝） 高次脳機能障害者支援について（作業療法士 平原由梨子） 我が地域の（高次脳機能）障害者支援体制について（富士東部圏域マネージャー渡辺典子氏）
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H25.11.26	13名	症例検討、支援技法等
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H26.1.28	14名	症例検討、支援技法等
リハ専門職学習会	山梨県高次脳機能障害者支援センター	県内病院 リハスタッフ	H26.3.18	16名	症例検討、支援技法等

○ 長野県（支援拠点機関：長野県立総合リハビリテーションセンター、佐久総合病院、相澤病院、健和会病院）

研修会・セミナー等の名称	主催者	対象者(出席者)	開催日	出席者数	プログラム内容等
高次脳機能障害研修会（南信地域）	健和会病院 県	当事者・その家族、保健・医療・福祉・教育関係者及び一般県民	H25.10.12	80名	①「高次脳機能障害の理解と支援」 横浜市総合リハビリテーションセンター 医療部 言語聴覚・心理課 臨床心理士 山口 加代子 氏 ②「当事者の立場から思うこと」 小林 氏 * 当事者の方についての補足説明 健和会病院

高次脳機能障害専門セミナー	相澤病院 県	当事者・その家族、保健・医療・福祉・教育関係者及び一般県民	H25.10.26	181名	①「高次脳機能障害診療における医療機関の役割」 社会医療法人財団慈泉会 相澤病院 リハビリテーション科 統括医長 原 寛美 氏 ②「高次脳機能障害と自動車運転の評価」 産業医科大学リハビリテーション医学講座 助教 加藤 徳明 氏 ③「東京都における高次脳機能障害者実態調査とその支援」 東京慈恵会医科大学附属第三病院 リハビリテーション科 教授 渡邊 修 氏
高次脳機能障害研修会 (北信地域)	長野県立総合リハビリテーションセンター 県	当事者・その家族、保健・医療・福祉・教育関係者及び一般県民	H25.11.10	91名	1 地域からの報告 ① 高次脳機能障害者の受入れ可能な事業所等の調査結果 (県障害者支援課) ② 家族の声 ③ 支援者の取組(須高地域障害者支援センター) ー障害特性をふまえた支援の工夫と取組の紹介ー 2 先駆的な取組紹介 ①「調布ドリームの立ち上げから、現在まで」 NPO法人 高次脳機能障がい者活動センター 調布ドリーム 理事長 吉岡 千鶴子 氏 ② 当事者・家族の発表 調布ドリーム関係者 ③ ディスカッション(調布ドリームと長野のメンバー) ー地域で安心して暮らしていくために必要なサービス・支援を考えるー
高次脳機能障害研修会(東信地域)	佐久総合病院 県	当事者・その家族、保健・医療・福祉・教育関係者及び一般県民	H26. 1.25	105名	①「一定の病気等に関わる運転者対策 ～高次脳機能障害と運転免許証の関わり～」 長野県警察本部 東信運転免許センター長 浦澤 正広 氏 ②「高次脳機能障害のある方への就労支援」 長野障害者職業センター 主任障害者職業カウンセラー 山本 英毅 氏 佐久圏域障害者就業・生活支援センターほーぷ 主任就業支援ワーカー 堀内 久美子 氏

厚生労働科学研究費補助金（障害者対策総合研究事業）
分担研究報告書

高次脳機能障害者の社会参加支援の推進に関する研究

研究分担者 高木 真一 東京都心身障害者福祉センター所長

研究要旨

東京都の支援拠点機関である東京都心身障害者福祉センターにおいて、支援ネットワーク構築、就労支援、昨年度から開始した「社会生活評価プログラム」、人材育成・普及啓発、相談支援を実施し、区市町村における相談支援体制や医療機関、福祉関係機関等の連携による支援ネットワークの形成などを支援することで、高次脳機能障害者が安心して暮らすことができる地域社会づくりを実現していくことを最終目標とする事業展開の研究。

A. 研究目的

本研究は、東京都の支援拠点機関である当センターにおいて、支援コーディネーターをはじめとする専門職員が、支援ネットワーク構築、就労支援、社会生活評価プログラム、人材育成・普及啓発、相談支援を実施することで、地域福祉の担い手である区市町村が地域で高次脳機能障害者を受け入れる支援体制を構築し、高次脳機能障害者が安心して暮らすことができる地域社会づくりを最終目標とするものである。

B. 研究方法

東京都心身障害者福祉センターを中心として、①支援ネットワーク構築、②就労支援、③社会生活評価プログラム、④人材育成・普及啓発、⑤相談支援、の5事業に沿って研究する。

個人データを調査する際には下記の倫理面での配慮をなす。

（倫理面への配慮）

本研究において得られた調査データは個人が特定できないようにされたデータのみを使用する。また、アンケート調査については、個人調査が必要な時には調査対象者及び家族等から、文書によるインフォームドコンセントを徹底し、被験者または保護者・関係者が納得し自発的な協力を得てから実施した。対象者の個人情報等に係るプライバシーの保護ならびに如何なる不利益も受けないように十分に配慮した。

結果の公表については対象者及び保護者・関係

者から、文書にてインフォームドコンセントを徹底し、承諾を得た。また、個人が特定できないように格別の注意を払った。

C. 研究結果

①支援ネットワーク構築では、医療、福祉、就労、教育、行政の各機関、学識経験者、当事者家族会等による相談支援体制連携調整委員会を年2回開催し、都の事業展開について協議を行った。

委員会での意見等を踏まえ、22・23年度の2か年にわたるモデル事業を経て、昨年度から本格事業化した「専門的リハビリテーションの充実事業」を25年度は6圏域にまで拡大し、二次保健医療圏の中核となる医療機関を中心に切れ目のない支援を提供するネットワーク構築を進めた。また、25年度から新たに、事業実施医療機関相互の情報共有を進めるための情報交換会を2回開催し、圏域間の連携を図った。

さらに、都の「区市町村高次脳機能障害者支援促進事業」を実施する区市町村が31か所まで拡大し、各自治体における事業内容の充実も進んでいる。

②就労支援では、地域の就労支援機関等の依頼に基づき、「就労準備支援プログラム」により、6か月間の職業評価を実施。19年の事業開始からの新規利用者数が200名を超えた。

③就労以前の段階にある高次脳機能障害者の社会参加を進めるために昨年度から実施している「社会生活評価プログラム」では、地域の支援機